

防府図書館の台湾洋画家作品

状態含め調査・研究

防府市立防府図書館所蔵の油絵が台湾の洋画家、陳澄波(1895~1947年)の作とみられることが分かり、防府市は28日、この絵画を、アジアの近現代美術に関して専門性の高い福岡アジア美術館(福岡市)へ寄託したと発表した。



防府市が福岡アジア美術館へ寄託した陳澄波の作とみられる油絵(市提供)

福岡アジア美術館に寄託

油絵は85年前の作品で、「台湾東海岸風景」という題名。大きさが縦70センチ、横130センチ。台湾東部とみられる海岸線の景色が描かれている。
防府市によると、1926~28年に台湾総督を務めた同市出身の上山満之進(1869~1938年)が購入した作品。満之進の尽力によって41年に防府図書館の前身・三哲文庫が開館した際、市が上山家から寄贈を受けた。長らく館内の壁に掛けられていたが、作品の劣化が進んだため、図書館が2006年に現在の場所(ルルサス防府)に移転してからは書庫の中で保管してきた。

満之進の伝記出版に係る調査の過程で、元龍谷大学教授の児玉識さん(円通寺住職)が史料をひもとき、陳の作品である可能性が高いことが判明した。8月には、陳澄波文化基金会(台湾)の理事長を務めている陳の孫が図書館を訪れ、作品に書かれた陳のサインも確認したという。
陳は台湾・嘉義市出身で、1924年に東京美術学校に留学。26年には台湾人の画家として初めて帝展に入選した。その後、台湾美術展覧会などで指導的役割を果たし、47年に台湾で起きた二・二八事件で処刑された。近年、台湾や中国を中心に作品への評価が高まっている。
防府図書館所蔵の油絵は劣化して傷んでいたこともあり、防府市が、作品の管理・保存環境や防犯・防災体制の整った福岡アジア美術館への寄託を決めた。同美術館を所有する福岡市と22日付で寄託契約(寄託期間10年)を結んだ。今後、美術館側で専門的な知見から、作品の状態や描かれた背景についての調査・研究

若者の妊娠・出産相談急増

熊本の「ゆりかご」年間4千件超す

に入る予定。^⑤
松浦正人市長は28日の定例会見で、「一刻も早く、より安全な所ですっかりと管

理いただくことが大切だと思っていると述べた。油絵を一般公開する機会を設けることも検討するという。

親が育てられない赤ちゃんを匿名で受け入れる「このよりのゆりかご」を設ける慈恵病院(熊本市)への相談件数が、右肩上がりで増えている。熊本県外の若者が妊娠や出産について問い合わせるケースが多く、病院は「正しい性知識の普及や、全国的な支援態勢が必要だ」と感じている。
2015年の師走。相談員のソーシャルワーカー平田直美さん(37)は、妊娠を疑う女子学生からの電話相談に応じた。「性行為に避妊具を使わなければ、いつでも妊娠の可能性はあります」と伝え、妊娠検査薬の買い方や病院の受診方法を丁寧に説明した。
相談者の半数は、10~20代。男性からの問い合わせも増えており、相談件数の約2割を占める。平田さんは「インターネットの情報を信じ込む人が多い。性教育で適切な知識を伝えること」